

ソマティクス・からだ・表現の研究会

「生きられた体験を理解するー現象学の実践としてのソマティクス」

2月8日（水）にソマティクス・からだ・表現の研究会を開催しました。学内外より12名の参加者が集い、講師の村川治彦先生による身体ワークを体験しました。その後のディスカッションでは、参加者による活発な意見交換も行われ、盛会のうちに終了しました。

日時：2023年2月8日（水）10:30～13:30

場所：甲子園会館西ホール

講師：村川治彦氏（関西大学）

指定討論者：吉田美和子氏（上智大学）

Somatics という名称は、トマス・ハナが現象学者フッサールの用語から造語しました。

ハナにとって Somatics は、身体を経験を深く探求する具体的実践法でした。ドン・ジョンソンの盟友で哲学者のエリザベス・ベンケは、現象学の百科事典 (Encyclopedia of Phenomenology) で Somatics を紹介し、哲学には Somatics のような身体的実践が必要だと述べています。今回は、主にセンサリーアウェアネスを基に、経験を探求する方法としての Somatics を体験的に理解するためのワークショップを開催しました。



© 生活美学研究所



© 生活美学研究所